

A N N U A L R E P O R T 2 0 0 7

年 次 報 告 書



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

今井 敬

1990年に開催された生命の祭典「国際花と緑の博覧会」の理念を永く継承発展させるために、翌1991年11月1日に設立されたのが、財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会です。

以来、「自然と人間との共生」という理念の継承発展に関する事業を行うとともに、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的とした数々の事業を行ってまいりました。

2007年度は、当協会の主要事業である「コスモス国際賞（第15回）」に、ロンドン大学NERC（自然環境調査会議）個体群生物学研究センター所長兼教授のジョージナ・M・メイス博士を選出しました。メイス博士はこれまで一貫して生物多様性の保全に国際的な立場から貢献されてこられました。メイス博士の全地球的な取り組み、生態学、遺伝学、数学的モデリング、政策を融合させた統合的かつ包括的なアプローチ、さらに絶滅のリスクを削減する長期的ビジョンは、コスモス国際賞にふさわしい優れた業績と評価いたしました。

普及啓発・継承発展事業におきましても、主催、共催、助成などさまざまな活動を行い、有意義な成果をあげることができました。

2008年度におきましても、これまでの実績を踏まえながら、更なる事業の推進を図っていきたいと考えています。また、新たな事業についても積極的に取り組み、理念の実現に新しい発想を生み出せる協会であり続けたいと思います。

皆様方の当協会に対する更なるご支援とご協力をお願いいたします。

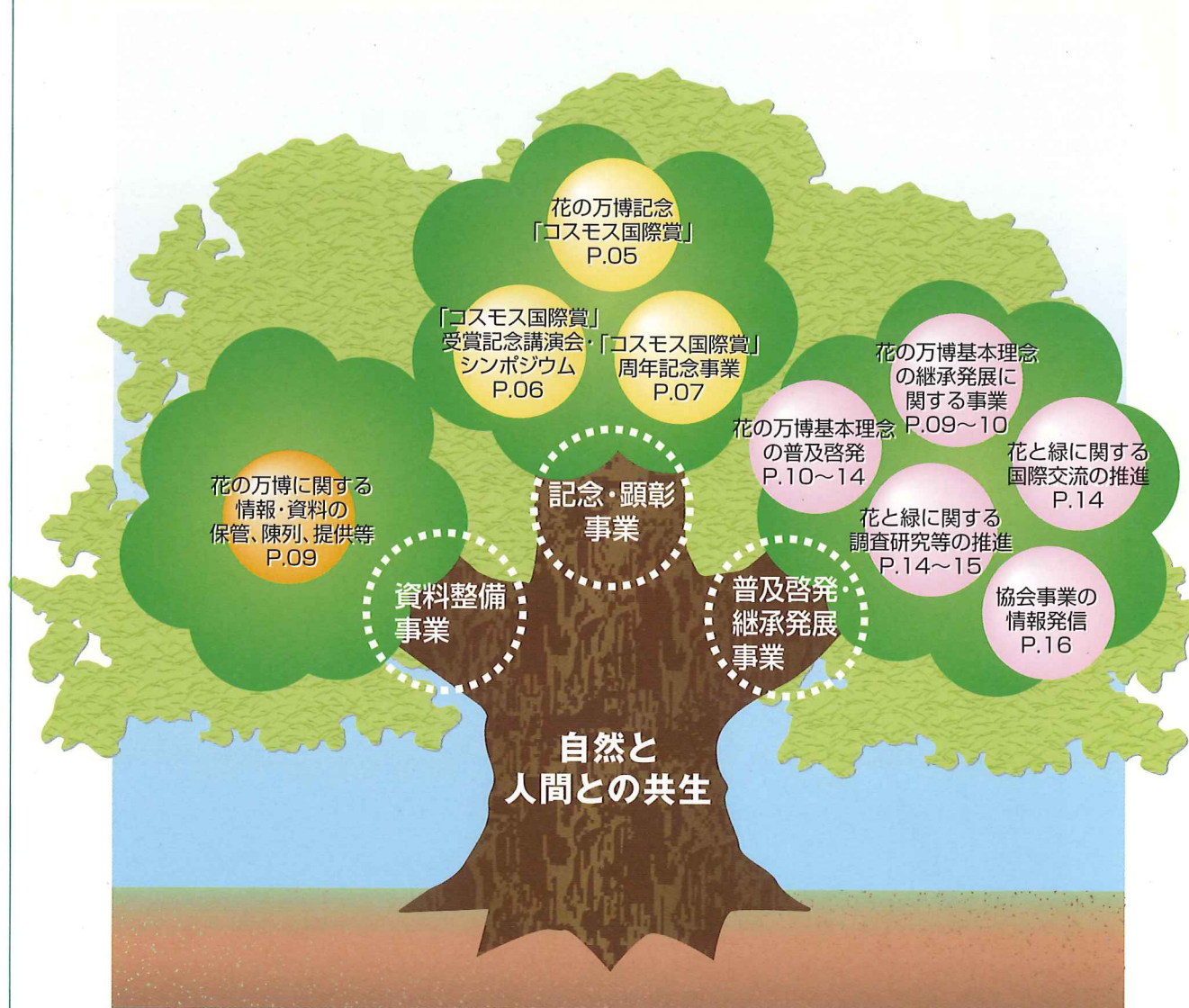
皇太子殿下ご臨席



皇太子殿下は、2007年コスモス国際賞授賞式にご臨席になった。

(平成19年10月4日 いずみホールにて)

国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という基本理念の継承・発展につながる多様な事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐろうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会に携わった者の責務であると考えられる。

そのため、博覧会に携わった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

記念・ 顕彰事業

花の万博記念「コスモス国際賞」

コスモス国際賞 国際花と緑の博覧会の「自然と人間との共生」という基本理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する花の万博記念「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2007年(第15回)受賞者の選考結果を承認し、授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等

学識経験者15名(国内11名、海外4名)によるコスモス賞委員会(以下「賞委員会」)及び学識経験者10名(国内8名、海外2名)によるコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<平成19年(2007年)受賞者の選考・決定等>

第1回賞委員会開催(平成18年10月26日)

第1回選考専門委員会開催(平成19年1月23日)

第2回・第3回選考専門委員会開催(平成19年5月14日、5月16日)

第4回選考専門委員会(平成19年6月11日)

第2回賞委員会(平成19年6月11日)

2007年コスモス国際賞受賞者にジョージナ・メイス博士(ロンドン大学NERC(自然環境調査会議)個体群生物学研究センター所長兼教授)を決定。

第53回理事会開催(平成19年6月27日)

賞委員会の決定を承認し、同日、内外の報道機関に対し、記者発表等を実施。



2007年(第15回)コスモス国際賞受賞者

ジョージナ・メイス博士

ロンドン大学NERC(自然環境調査会議)個体群生物学研究センター所長兼教授

絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、現在のIUCN(国際自然保護連合)のレッドリストの根拠となる理論、及びリストのワシントン条約による効果的運用など、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取組みが国際的に認められた。

<平成20年(2008年)受賞者の選考>

第1回賞委員会開催(平成19年10月14日)

第1回選考専門委員会開催(平成20年1月25日)

2007年(第15回)コスモス賞授賞式等の開催

国内外の賓客及び招待者約450名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時:平成19年10月4日(木) 午後2時30分～午後4時40分

場 所:いずみホール [大阪市中央区]

出席者:約450名

次 第:開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介 主催者紹介
来賓紹介(1993年受賞者 ギリアン・フランス博士、
1995年受賞者 吉良龍夫博士、2002年受賞者 チャールズ・ダーウィン研究所所長 グラハム・ワトキンス博士、
2003年受賞者 ピーター・レーブン博士、駐日英国大使館 グレアム・フライ大使、農林水産省谷川弥一大臣官房
政務官、国土交通省金子善次郎大臣官房政務官、太田房
江大阪府知事、岩見星光大阪府議会議長、關淳一大阪市
長、足高将司大阪市会議長) 主催者挨拶 授賞理由及び
受賞者の紹介 受賞者入場 賞状・賞金目録贈呈
メダル贈呈 来賓祝辞 受賞者挨拶 祝賀演奏 閉会



受賞記念レセプション

日 時:平成19年10月4日(木) 午後5時～午後6時30分

場 所:ホテルニューオータニ大阪 [大阪市中央区]

出席者:約400名

2007年度事業実績

記念・ 顕彰事業

「コスモス国際賞」受賞記念講演会・シンポジウム

コスモス国際賞
受賞記念講演会

コスモス国際賞授賞式の関連行事として、2007年受賞者ジョージナ・メイス博士による講演を開催しました。

	● 大 阪	● 東 京
日 時	平成19年10月2日(火) 13:30~16:20	平成19年10月6日(土) 13:00~16:05
場 所	京都大学芝蘭会館 [京都市左京区]	TOKYO FM HALL [東京都千代田区]
テーマ	「生物多様性の喪失と生態系の変化～人間と環境に与える影響の重大性」	
対談	プレゼンター 今福道夫博士(コスモス国際賞選考専門委員会委員) パネリスト ジョージナ・メイス博士 岩槻邦男博士(コスモス国際賞委員会委員)	
参加者	約200名	約250名
後 援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、大阪府、大阪市、英国大使館、 ブリティッシュ・カウンシル、日本生態学会	



2007年コスモス
国際賞報告書の
作成

2007年(第15回)受賞者の業績、コスモス賞の趣意、構成、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書(変形A4判 70頁)を作成(1,300部)し、国内外の関係者に配付しました。



花の万博記念「コスモス国際賞」委員会委員

平成19年1月1日現在

委員長 有馬 朗 人 (財)日本科学技術振興財団会長
副委員長 岸 本 忠 三 大阪大学大学院教授
委員 岩 槻 邦 男 兵庫県立人と自然の博物館館長
委員 梅 棹 忠 夫 国立民族学博物館顧問
委員 グンナー・オーグスト スウェーデン王立科学アカデミー事務局長
委員 黒 川 清 前日本学術会議会長
委員 小 山 修 三 吹田市立博物館館長
委員 A.H.ザクリ 国連大学高等研究所所長
委員 鈴 木 昭 憲 東京大学名誉教授
委員 中 根 千 枝 日本学士院第一部部長
委員 中 村 桂 子 JT生命誌研究館館長
委員 日 高 敏 隆 総合地球環境学研究所所長
委員 オーレ・フィリップソン 博覧会国際事務局(BIE)名誉議長
委員 サー・ギリアン・ブランス エデン・プロジェクト科学部長
委員 村上陽一郎 国際基督教大学大学院教授

花の万博記念「コスモス国際賞」選考専門委員会委員

平成19年1月1日現在

委員長 小 山 修 三 吹田市立博物館館長
副委員長 加 藤 雅 啓 国立科学博物館植物研究部長
委員 ハン・クンリ ユネスコ アジア・太平洋地方科学部生態学部長
委員 亀 山 章 東京農工大学教授
委員 餌 取 章 男 科学ジャーナリスト
委員 大熊由紀子 国際医療福祉大学大学院教授
委員 川 勝 平 太 国際日本文化研究センター教授
委員 バトリシア・ライト ストニー・ブルック大学教授
委員 今 福 道 夫 京都大学大学院教授
委員 松 下 和 夫 京都大学大学院教授

「コスモス国際賞」第15回記念事業

第15回記念 シンポジウム

コスモス国際賞の第15回を記念して、
記念シンポジウムおよび歴代受賞者高校派遣、学術懇親会を開催しました。

日 時	平成19年10月6日(土) 14:20~16:30
場 所	TOKYO FM HALL(東京都千代田区)
テーマ	人類と地球の未来のために
パネリスト等	パネリスト ギリアン・ブランス博士 (1993年コスモス国際賞受賞者) グラハム・ワトキンス博士 (2002年コスモス国際賞受賞者代表) ピーター・レーブン博士 (2003年コスモス国際賞受賞者) 村上陽一郎博士 (コスモス国際賞委員会委員) コーディネーター 有馬朗人博士 (コスモス国際賞委員会委員長)
参加者	約250名
共 催	朝日新聞社



歴代受賞者 高校派遣

日 時	平成19年10月2日(火) 13:00~15:00	平成19年10月8日(月・祝) 13:30~17:30
場 所	東大寺学園高等学校(奈良県奈良市)	東京都立日比谷高等学校(東京都千代田区)
テーマ	南米熱帯雨林における 自然と地域住民の共生	危機にある世界自然遺産 第1号の島ーガラパゴス ー地球環境保全のための ダーウィン研究所の役割ー
講 師	ギリアン・ブランス博士 1993年コスモス国際賞受賞者	グラハム・ワトキンス博士 2002年コスモス国際賞受賞者代表
参加者	1年生 220名	1年生等 350名
後 援	朝日新聞社	



学術懇親会

日 時	平成19年10月6日(土) 17:00~18:30
場 所	ホテルニューオータニ(東京都千代田区)
出席者	約30名(歴代受賞者、ジョージナ・メイス博士、コスモス国際賞委員会委員、 コスモス国際賞選考専門委員会委員、KOSMOSフォーラムパネリスト、マスコミ関係者等)

コスモス国際賞歴代受賞者

記念協会の主事業である花の万博記念「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

第1回 平成5年(1993)

ギリアントルミー プランス

Sir Ghilleen Tolmie Prance



イギリス・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全体の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

第2回 平成6年(1994)

ジャック フランソワ バロー

(物故)

Dr. Jacques Francois Barrau



フランス・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の島々の自然と人々の暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これをもとに人間と食糧をテーマに、全地球的な視点からユニークな考察を発表した。

第3回 平成7年(1995)

吉良 龍夫

Dr. Kira Tatuo



日本・滋賀県顧問、前琵琶湖研究所所長、大阪市立大学名誉教授

光合成による植物の有機物生産の定量的研究をもとに、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割をつとめた。

第4回 平成8年(1996)

ジョージ ビールズ シャラー

Dr. George Beals Schaller



アメリカ・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地で様々な野生動物の生態と行動を研究。『マウンテンゴリラ・生態と行動』『ラストパンダ』など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

第5回 平成9年(1997)

リチャード ドーキンス

Dr. Richard Dawkins



イギリス・オックスフォード大学博士

1976年に出版された著書『利己的な遺伝子』で、生物学の常識を覆す大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して、学会に論争を起こした。

第6回 平成10年(1998)

ジャレド メイスン ダイヤモンド

Dr. Jared Mason Diamond



アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部教授

医学部教授として生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらをもとに人類の歴史的な発展を再構成した。

第7回 平成11年(1999)

ウー チェン イ(呉 征鎰)

Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授、名誉所長

地球上で植物の種の最も豊かな地域の一つである中国全土の植物約3万種を網羅した『中国植物誌』の編集を主宰し、開発途上国における生物多様性に貢献した。

第8回 平成12年(2000)

デービッド フレデリック アッテンボロー

Sir David Frederick Attenborough



イギリス・映像プロデューサー、自然誌学者、動物学者

野生生物のドキュメンタリー映像のバイオニア。地球上の様々な動植物についての卓越した映像を通して、全世界の人々に生命の本質について訴えた。

第9回 平成13年(2001)

アン ウィストン スパーン

Prof. Anne Whiston Spirn



アメリカ・マサチューセッツ工科大学教授

「都市と周辺環境とが調和した地域づくり」を提唱、自然と都市との共生をテーマに地域計画に取り組んだ。また自然と人間との関わりについて「景観を読む」という新しい視点を提示した。

第10回 平成14年(2002)

チャールズ・ダーウィン研究所

The Charles Darwin Research Station



エクアドル

ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。

第11回 平成15年(2003)

ピーター ハミルトン レーブン

Dr. Peter Hamilton Raven



アメリカ・ミズーリ植物園園長

花と昆虫の共進化に関する研究を発表、花生物学分野の研究の端緒をつかった。人類生存には、地球の生物多様性保全が不可欠であると世界で最初に提起した。

第12回 平成16年(2004)

フーリャ カラビアス リジョ

Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学理学部教授

常に途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、徹底したフィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合する手法でプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題にすぐれた成果を挙げてきた。

第13回 平成17年(2005)

ダニエル ポーリー

Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授

幅広い視野と長期的視点で漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究し、海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデルの開発など、海洋生態系と資源研究の分野ですぐれた業績を収めた。

第14回 平成18年(2006)

ラマン スクマール

Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所生態学センター教授

ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

第15回 平成19年(2007)

ジョージナ メアリー メイス

Dr. Georgina Mary Mace



イギリス・ロンドン大学NERC(自然環境調査会議) 個体群生物学研究センター所長兼教授

絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、現在のIUCN(国際自然保護連合)のレッドリストの根拠となる理論、及びリストのワシントン条約による効果的運用など、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取組みが国際的に認められた。

※肩書きは受賞時のものです。

資料整備 事業

花の万博に関する情報・資料の保管、陳列、提供等

公式記録等の保存に関する調査

博覧会の公式記録等動画フィルムの半永久的な保存のため実施しています。平成18年度までにハイビジョンフィルム(263本 約250時間)、MIIテープ及び一部VHSテープ(386本 約342時間)のデジタルダビングを行い、本年度は36mmフィルムのデジタル化を実施しました。

映像による日本植物誌事業

日本の野生植物種を動画により撮影する「映像による日本植物誌(PPH:プラントフォトハンティング)」は、これまで約850時間、約4,000種の野生種を収録しました。これを基に、平成19年度は、「一北の島ー利尻の花」「一水中生活に戻った陸上植物ーバイカモ」「一淡水に住む海藻ーチスジノリ」「一早春の花ートサミズキの仲間達」「一多彩な花色のーパンジー」「一日本固有の原始的な樹木たちーコウヤマキ、カツラ、ヤマグルマ」「一日本列島特産の美しい花ーシラネアオイとガクシショウマ」の7種の作品を制作しました。なお、作品は当協会ホームページに掲載して紹介しています。



情報等の提供

上海万博及び各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体	3件
企業等	6件

普及啓発・ 継承発展 事業

花の万博基本理念の継承発展に関する事業

伝統園芸植物の保存活用と普及啓発に関する調査

世界的にも優れた日本の伝統園芸植物について、その現状の把握、栽培・育種技術の継承、組織や人材などに関する情報を収集し、保存活用と普及啓発にかかる調査をするための研究会において、方向と内容について検討しました。また、滅失しつつある現状を踏まえて、貴重で保存価値の高い技術の保存を行うことが喫緊の課題であるため、栽培の技術及び観賞作法、それらが生まれた歴史的及び精神的背景、気候風土などをビデオ撮影などにより撮影・記録を行いました。さらに、ダブリン(アイルランド)で開催されたIFPPRA(国際公園・レクリエーション管理行政連合)世界大会において、伝統園芸植物の現状及び保存と普及の必要性についてポスターセッションを行いました。



KOSMOS フォーラム

わが国の第一線の科学者の英知を集め、宇宙の新しい全体像を包括的に考察し、その中で人類の果たすことができる役割を探ろうというのがKOSMOSフォーラムです。平成19年度は「21世紀の新しい宇宙観を探る」を統一テーマとし、3回のフォーラムを開催しました。

第12回 テーマ「宇宙と地球」

～地球の起源、進化と未来を問う～

日 時：平成19年8月25日(土) 午後2時30分～4時30分

場 所：ベルサール神田[東京都千代田区]

パネリスト：内井 惣七(京都大学名誉教授)

海部 宣男(前国立天文台長・名誉教授)

佐藤 勝彦(東京大学大学院教授)

竹宮 恵子(漫画家、京都精華大学教授)

コーディネーター：池内 了(総合研究大学院大学教授)

参加者：約240名

共 催：日経サイエンス社

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



2007年度事業実績

普及啓発・ 継承発展 事業

第13回 テーマ「宇宙と人間」

～宇宙において人間はどんな存在か～

日 時：平成19年12月9日(日) 午後2時30分～4時30分

場 所：ベルサール九段 [東京都千代田区]

パネリスト：佐治 晴夫 (鈴鹿短期大学学長)

中野不二男 (ノンフィクション作家)

中村 桂子 (JT生命誌研究館館長)

野家 啓一 (東北大学副学長・教授)

コーディネーター：海部 宣男 (前国立天文台長・名誉教授)

参加者：約250名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



第14回 テーマ「宇宙と心」

～宇宙に意思はあるか～

日 時：平成20年2月11日(月・祝) 午後2時～4時30分

場 所：TOKYO FM HALL [東京都千代田区]

パネリスト：池内 了 (総合研究大学院大学教授)

岡野 守也 (思想家、サンガラ教育・心理研究所主幹)

桜井 邦明 (元神奈川大学学長・元NASA上級研究員)

村上陽一郎 (国際基督教大学大学院教授)

コーディネーター：佐治 晴夫 (鈴鹿短期大学学長)

参加者：約310名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



花の万博基本理念の普及啓発

コスモスセミナー 平成19年度は、前年度に引き続き屋外での自然観察(フィールド型)セミナー並びに一般向け講演会、講師派遣型セミナーを実施しました。

「自然観察教室」
～集まれ昆虫
好きな子供たち
2007～

開催日：平成19年7月30日(月)～8月1日(水)

場 所：関西学術研究都市清瀬・室池地区「アイ・アイ・ランド」[大阪府四條畷市]

講 師：保田淑郎 (大阪府立大学名誉教授)

東 昭 (東京大学名誉教授)

谷 幸三 (大阪産業大学講師)

南 尚美 (奈良生物研究会幹事)

参加者：近畿圏の小学5・6年生及び中学1年生 25名

特別協力：(財)奈良先端科学技術大学院大学支援財団

後 援：大阪府、大阪府教育委員会、奈良県、奈良県教育委員会、
四條畷市、四條畷市教育委員会、生駒市、生駒市教育委員会、
日本環境教育学会、日本環境動物昆虫学会・日本昆虫学会、
日本生態学会、日本動物行動学会、日本鱗翅学会、日本昆虫協会、JT生命誌研究館



記録CD-ROM



一般向け講演会

「ガーデンアイランド北海道」の理事として活躍されている内倉真裕美氏の基調講演と、3名の活動代表者からの事例報告とパネルディスカッションを通して、花と緑のまちづくり活動を広めていくための知識及びノウハウの取得と、情報・活動交流を行いました。

テーマ：花とみどりのまちづくり交流会

～素敵な笑顔と出会いでもっと楽しく～

日 時：平成20年3月9日(日) 午後1時～

会 場：神戸女子大学、神戸市立須磨離宮公園

講 師：内倉真裕美 (ガーデンアイランド北海道理事)

パネリスト：伊藤左紀子 (「ターシャの庭 in Gifu」主宰)

吉村 雅代 (07全国花のまちづくりコンクール大賞(個人部門)受賞者)

吉村とも子 (SAP-Green club代表、園芸療法士)

コーディネーター：林 まゆみ (淡路景観園芸学校・兵庫県立大学准教授)

参加者：約160名

共 催：神戸市立須磨離宮公園、神戸女子大学

後 援：農林水産省近畿農政局、国土交通省近畿地方整備局、大阪府、兵庫県、大阪市、神戸市



小学校講師派遣

テーマ「昆虫とは」

日 時：平成19年10月29日(月) (3時間目)

場 所：守口市立南小学校 [大阪府守口市]

講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)

参加者：小学校3年生 36名

テーマ「いのちについて」

日 時：平成19年10月31日(水) (3・4時間目)

場 所：京都市立養正小学校 [京都市左京区]

講 師：中村 桂子 (JT生命誌研究館館長)

参加者：小学校6年生 28名

テーマ「地球温暖化とは」

日 時：平成19年11月7日(水) (3時間目)

場 所：京都市立京北第三小学校 [京都市右京区]

講 師：早坂 忠裕 (総合地球環境学研究所)

参加者：小学校4・5年生 24名

テーマ「昆虫について」

日 時：平成19年11月20日(火) (3・4時間目)

場 所：羽曳野市立西浦東小学校 [大阪府羽曳野市]

講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)

参加者：小学校3年生 56名

テーマ「昆虫について」

日 時：平成19年11月20日(火) (6時間目)

場 所：和泉市立南横山小学校 [大阪府和泉市]

講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)

参加者：小学校1～6年生 68名

テーマ「昆虫とは？昆虫の暮らし、観察等について」

日 時：平成19年12月14日(金) (5時間目)

場 所：田辺市立殿原小学校 [和歌山県田辺市]

講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)

参加者：小学校1～6年生 11名

テーマ「昆虫の暮らし」

日 時：平成20年2月1日(金) (3・4時間目)

場 所：葛城市立新庄小学校 [奈良県葛城市]

講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)

参加者：小学4年生 121名



◆花と緑に関する全国的な普及啓発

第17回(2007年) 全国花のまち づくりコンクール

花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省並びに国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたコンクールです。実施主体である「花のまちづくりコンクール推進協議会」のメンバーとして参画し、以下のとおり実施しました。

応募数：1,251件

入 賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各2点をはじめ13点

表彰式

開催日：平成19年10月26日(金)

場 所：虎ノ門パストラル [東京都港区]

受賞者：市町村、団体、個人、企業の4部門

主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会

[(財) 国際花と緑の博覧会記念協会、(財) 日本花の会、
(財) 都市緑化基金、(財) 日本花普及センター]



2007年度事業実績

普及啓発・ 継承発展 事業

ジャパンフラワー フェスティバル さいたま2007

ジャパンフラワーフェスティバルは、花の万博を契機に、花いっぱいの国土、社会並びに生活を実現する国民的運動として、農林水産省の提唱により平成3年度から開催されています。今回は第17回目であり、ジャパンフラワーフェスティバルさいたま2007実行委員会に参画し、次のとおり開催しました。

開催日：平成19年6月1日(金)～3日(日)

場 所：さいたまスーパーアリーナ [さいたま市中央区]

入場者：約127,000人

主 催：ジャパンフラワーフェスティバルさいたま2007実行委員会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)日本花普及センター、埼玉県、さいたま市ほか〕



◆花の万博開催の地元における普及啓発(府市理念継承事業)

花の万博開催の地元において基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と共同して実施しました。

第23回 大阪府 都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かな街づくりを進めるため、都市緑化に関する府民の意識の高揚や知識の普及を図ることを目的に、毎年10月の都市緑化月間に開催しています。平成19年度は大阪狭山市で開催された第23回大阪府都市緑化フェアの実行委員会に参画し、支援を行いました。また、会場内の出展ブースにおいて協会のPRコーナーを設け、パネルと万年青の展示や花の種入りティッシュ等の配布を行いました。

開催日：平成19年10月21日(日)

場 所：さやか公園、今熊市民の森 [大阪狭山市]

来場者：約2,150人

主 催：第23回大阪府都市緑化フェア実行委員会

内 容：花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、緑化講習会など



緑化ボランティア リーダー養成講座

地域の魅力、まちの顔づくりプロジェクトをはじめ大阪府におけるまちの緑化を府民協働により推進していくため、緑化ボランティア活動の中核となるリーダーの養成を行いました。

共 催：(社)大阪府公園・都市緑化協会



まちの緑花実地 講習

府営公園をはじめ、まちにおける持続可能で美しい緑化を府民と共に推進していくために、緑花活動を行っている現場での講習会を実施しました。また、都市の緑化の中心施設である府営公園を核として、府民協働による緑化啓発活動などを効果的に行いました。

共 催：(財)大阪府公園協会



公園ボランティア の育成・支援

鶴見緑地をはじめとする大公園をより魅力あるものに、また利用者に愛される公園とするため、公園利用の活性化や利用者サービスなど担い手となる公園ボランティアの育成と活動支援を行いました。

共 催：(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会

「美しい大阪をつくる 100万本のバラの会」 普及啓発

平成18年5月に大阪で開催された「世界バラ会議大阪大会2006」を契機に発足した「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」の活動を広く市民に周知し、募金活動の拡大を得ることにより事業の一層の推進を図り、バラの花咲く美しい大阪の実現と花や緑のまちづくりへの関心を高めました。

共 催：(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会



大阪フラワー・ ガーデンショー 2007

市民が花や緑のまちづくりへの関心と花・緑を育てる伝統や文化への理解を喚起し普及啓発を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催しました。

開催日：平成19年4月20日(金)～22日(日)

場 所：花博記念公園鶴見緑地内
水の館展示ホール [大阪市鶴見区]

主 催：大阪フラワー・ガーデンショー2007実行委員会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、大阪園芸商組合、大阪園芸サービス協同組合、大阪市、(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会ほか〕



◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催による実施、また協賛等を行いました。

都市緑化推進運動

国土交通省、都道府県、市町村が主催して毎年全国的規模で実施される春の都市緑化推進運動期間(4～6月)及び都市緑化月間(10月)における「みどりの愛護」のつどいや都市緑化キャンペーン活動等の事業に対して、都市緑化推進運動協力会に参加し、各種の国土交通省関連団体と共に協力等を行いました。

まちづくり月間

平成19年6月の第25回「まちづくり月間」における中央行事(表彰式、シンポジウム)、写真コンテストや標語募集等の事業実施について、関係団体と共に実行委員会に参画、協賛を行いました。

近畿都市緑化祭

近畿地方における都市緑化を推進するため、都市圏域内の行政団体等が連携して、毎年10月の都市緑化月間中に京阪神の府県指定市が持ち回りで開催しています。平成19年度は、大阪府で開催された「グリーンサーカス2007」に対して事業の支援、協賛を行いました。

開催日：平成19年10月28日(日)

場 所：東雲公園 [大阪府堺市]

来場者：約5,700人

主 催：近畿都市緑化推進連絡協議会、みどりの5団体合同フォーラム

内 容：参加型花壇づくり、ビオトープ視察、緑化相談など



後援等一覧

●催事名(開催時期)	●開催場所	●主 催	●名義
第11回大阪府花と緑の街づくりコンクール (H19.4.1～10.31)	大阪府下	(社)大阪府公園・都市緑化協会	後 援
第32回ハンギングバスケット展 (H19.4.3～4.15)	花博記念公園鶴見緑地 「咲くやこの花館」 (大阪市鶴見区)	大阪市、(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会、咲くやこの花館	後 援
大阪フラワーガーデンショー2007 (H19.4.20～4.22)	花博記念公園鶴見緑地 「水の館ホール」 (大阪市鶴見区)	大阪フラワーガーデンショー実行委員会	後 援
第9回「国際バラとガーデニングショウ」 (H19.5.16～5.20)	グッドウィルドーム (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニングショウ組織委員会	後 援
大阪ばら祭2007 (H19.5.18～5.20)	花博記念公園鶴見緑地 「咲くやこの花館」 (大阪市鶴見区)	(財)日本ばら会関西支部 (財)大阪市スポーツ・みどり振興協会	後 援
エコ・グリーンテック2007 (H19.5.23～5.25)	東京国際展示場 (東京都江東区)	エコ・グリーンテック実行委員会、環境緑化新聞	協 賛
第55回大阪朝顔品評会 (H19.7.25～7.29)	大阪市花とみどりと自然の情報センター (大阪市東住吉区)	大阪朝顔会	後 援
第32回ハンギングバスケット展 (H19.9.26～10.14)	花博記念公園鶴見緑地 「咲くやこの花館」 (大阪市鶴見区)	大阪市、(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会、咲くやこの花館	後 援
平成19年度「都市緑化月間」 (H19.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協 賛
第44回大阪城菊の祭典 (H19.10.15～11.11)	大阪城公園 本丸地区 (大阪市中央区)	大阪市	後 援
大阪ばら展2007 (H19.10.19～10.21)	大阪市花とみどりと自然の情報センター (大阪市東住吉区)	(財)日本ばら会関西支部 (財)大阪市スポーツ・みどり振興協会	後 援
かんさいフラワーショー2007 (H19.11.23～11.25)	花博記念公園鶴見緑地 「水の館ホール」 (大阪市鶴見区)	かんさいフラワーショー実行委員会	後 援
平成19年度「大阪府立花の文化園幼児・小中学生花の絵画展」 (H20.1.5～2.3)	大阪府立花の文化園 (大阪府河内長野市)	大阪府、(財)大阪府みどり公社	後 援
小品盆栽フェア「第16回春雅展」 (H20.3.28～3.30)	花博記念公園鶴見緑地 「水の館ホール」 (大阪市鶴見区)	(社)全日本小品盆栽協会	後 援
全国ミニチュアガーデンコンテスト (H20.3.30～H21.1.18)	兵庫県立淡路夢舞台温室 「奇跡の星の植物館」 (兵庫県淡路市)	(財)淡路花博記念事業協会、兵庫県立淡路夢舞台温室「奇跡の星の植物館」	後 援

普及啓発・
継承発展
事業

ラフレシアの
貸出し・出展

博覧会に展示された世界最大の花「ラフレシア」(封入標本)を修復の上、国立科学博物館「花展」に出展しました。



花と緑に関する国際交流の推進

BIEコスモス賞
への支援事業

花博記念協会とBIE(博覧会国際事務局)は新たにBIEコスモス賞を創設し、「自然と人間との共生」理念の継承や社会の進歩に資する市民活動の顕彰を行います。

平成19年7月にスペイン・サラゴザにて、BIE事務総長と花博記念協会理事長による調印式が行われました。

また、同年12月に全世界を対象に公募を行い、18カ国36件の応募がありました。第1回BIEコスモス賞の授与は、2008年サラゴザ万博のBIEデーに行われます(賞金は2万ユーロ)。



花と緑に関する調査研究等の推進

平成20年度
助成事業

博覧会の基本理念の継承発展又は普及啓発に資する調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与するため、次のとおり事業を実施しました。

①平成19年度助成事業を実施しました。

②平成20年度助成事業の公募、審査、助成対象の決定を次のとおり行いました。

ア) 公募及び審査

公募期間：平成19年10月15日(月)～11月26日(月)

公募案件：70件

審査：・一次審査：平成19年12月10日(月)～12月21日(金)

審査会委員が分担しての提出書類に基づく審査

・二次審査：平成20年2月8日(金)・29日(金)

大阪・東京の2会場で、応募団体のプレゼンテーション審査

イ) 助成対象団体の決定

審査結果報告をもとに、理事長が助成可否を決定し、平成20年3月17日(月)開催の第55回理事会において報告を行い、助成対象となった18団体に通知しました。

(別表1：平成20年度助成対象一覧表)

③助成事業成果発表会を次のとおり開催し、助成事業の周知に努めました。

日 時：平成19年10月20日(土)

場 所：南御堂 教化センター会館1階〔大阪市中央区〕

来 場 者：約100人

内 容：平成16年度から18年度までの助成対象者の中から6団体が事業の内容やその成果について発表を行い、また、平成20年度花博記念協会助成事業の公募についての案内を行いました。

花博記念協会助成事業審査会 委員 平成20年3月31日現在

委員長	近 藤 公 夫	奈良女子大学 名誉教授
副委員長	尼 崎 博 正	京都造形芸術大学 教授
委員	今 西 英 雄	東京農業大学農学部 教授
委員	佐 倉 統	東京大学大学院情報学環 教授
委員	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
委員	長 村 智 司	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
委員	服 部 明 世	大阪芸術大学芸術学部 教授
委員	鷺谷いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

(別表1)
平成20年度
助成対象一覧表

●事業区分	●事業名	●助成対象者名
調査研究開発	樹木のフェノロジー調査とその手法開発プロジェクト	樹形研究会
	子どものための園芸療法の活用可能性についての研究	東京農業大学 子どものための園芸療法プロジェクトチーム
	越前町立福井総合植物園植物標本整理事業	(財)越前町朝日公共施設管理公社
	トウツバキ園芸品種の保全に関する日中共同研究	(財)花と緑の銀行
	淀川水系における水生・湿生植物の分布調査	NPO法人 大阪自然史センター
	中尾佐助植物探検資料のデータベース化による活用研究	照葉樹林文化研究会
活動・行催事	白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川開催事業	NPO法人 白神山地を守る会
	ツマグロキチョウに春を呼べ!! ～ため池堤体方面改修における希少植物の保全活動～	伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム
	花のまちづくりボランティア活動	ガーデンシティコープ金剛東すみれ会
	カキツバタの里づくり実行委員会	カキツバタの里づくり実行委員会
	KODOMO ラムサール国際湿地交流 in にいがた	KODOMO ラムサール国際湿地交流実行委員会
	「みどりの文」-手紙部門- 絵手紙部門-	(社)福島県造園建設業協会
	第3回みどりのまちづくり景観賞	(社)ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部
	都市域復元型ビオトープにおける自然回復状況のモニタリングおよび環境教育活動	京都ビオトープ研究会
	アートを活用した都心部コミュニティによる河川自然環境の創出	東横堀川水辺再生協議会
	倉敷地域に自生する絶滅危惧植物を用いた屋上緑化	岡山大学資源生物科学研究所屋上緑化プロジェクト
	市民による市街地公園での「平成の森」づくり	堺千年の森クラブ
	亀岡市植生調査	亀岡植物誌研究会

平成19年度
主な助成対象事業



塩屋海岸における
絶滅危惧海岸植物群落の保全活動



トウツバキ園芸品種の
保全に関する日中共同研究



越前町立福井総合植物園
植物標本整理事業



白神山地
ブナ植樹フェスタ
in 赤石川開催事業

※他14事業

2007年度事業実績

普及啓発・ 継承発展 事業

協会事業の情報発信

ホームページ 運営

当協会ホームページや「コスモス国際賞」、「KOSMOSフォーラム」の各ウェブサイトを実施事業の理解促進・普及のために活用するとともに、情報の更新、サイトの維持管理を行いました。



<http://expo90.jp/>



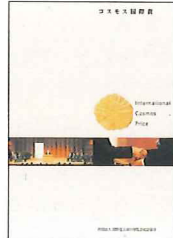
<http://www.expo-cosmos.or.jp/>



<http://www.kosmos-forum.org/>

コスモス国際賞 パンフレットの 刷新

各受賞者の最新経歴を掲載した冊子を作成しました。



プレスネット ワークの構築

当協会事業の発信性を高めるため、新聞社との共催事業を実施する等、協力体制（プレスネットワーク）の構築を図りました。

毎日新聞社との共催「小・中学校における生態園づくり」 （特別協力：大阪府立城山高等学校）

場 所：池田市立北豊島小学校 [大阪府池田市]
内 容：トンボの住む池

場 所：豊中市立第十五中学校 [大阪府豊中市]
内 容：ミニ田んぼと水辺のビオトープ

場 所：豊中市立庄内西小学校 [大阪府豊中市]
内 容：田んぼビオトープ

場 所：箕面自由学園小学校 [大阪府箕面市]
内 容：バタフライガーデン

場 所：伊丹市立瑞穂小学校 [兵庫県伊丹市]
内 容：バタフライガーデンとトンボの住む池

場 所：京都市立京北第三小学校 [京都市右京区]
内 容：バタフライガーデンと水辺のビオトープ

「小・中学校における生態園づくり」事例発表会

日 時：平成19年11月10日（土）午後2時～5時

場 所：大阪市立青少年文化創造ステーション [大阪市東淀川区]

内 容：事例発表

- ・寝屋川市立点野小学校 「蝶の楽園を作ろう！」
- ・橿原市立畝傍中学校 「飛鳥川再生プロジェクト～環境学習フィールドづくり」
- ・京都教育大学附属桃山中学校 「池作りを通してみる校庭の自然環境」
- ・和泉市立南横山小学校 「チョウを呼び込む生態園づくり」

特別発表

- ・大阪府立城山高等学校 「チョウの飛び街づくりをめざして」

参加者：約150名

主 催：毎日新聞大阪本社、(財)国際花と緑の博覧会記念協会

協 力：大阪府立城山高等学校

後 援：京都教育大学、大阪府教育委員会、寝屋川市教育委員会、
和泉市教育委員会、橿原市教育委員会、日本生態学会、
(財)日本生態系協会、特定非営利活動法人日本ビオトープ協会

日経サイエンス社との共催 第12回KOSMOSフォーラム

第12回KOSMOSフォーラムを、日経サイエンス社と共催し、事前告知並びに事後の概要報告を日経サイエンス誌上で行いました。



理事会 2007年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第53回理事会	平成19年 6月27日(水)	ホテルニューオータニ 東京	2007年(第15回)花の万博記念「コスモス国際賞」 受賞者の承認の件 平成18年度事業報告及び収支決算の件
第54回理事会	平成19年 8月1日(水)	協会会議室	評議員の選任の件
第55回理事会	平成20年 3月17日(月)	経団連会館	平成20年度事業計画及び収支予算の件 評議員の選任の件 顧問及び参与の委嘱の件 会長、副会長、理事長等の選任の件 役員報酬の改定の件

評議員会 2007年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第27回評議員会	平成19年 7月24日(火)	協会会議室	理事の選任の件
第28回評議員会	平成20年 3月4日(火)	千里阪急ホテル	平成20年度事業計画及び収支予算の件 理事の選任の件 監事の選任の件

2007年度決算

貸借対照表総括表 平成20年3月31日現在

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	38,370,247				38,370,247
未収金	133,194,769			△133,152,820	41,949
未収収益	28,977,855	123,585,260	9,567,560		162,130,675
有価証券	24,195,000				24,195,000
流動資産合計	224,737,871	123,585,260	9,567,560	△133,152,820	224,737,871
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産投資有価証券			800,000,000		800,000,000
基本財産合計			800,000,000		800,000,000
(2) 特定資産					
退職給付引当資産	29,520,700				29,520,700
事業推進引当資産	251,434,178				251,434,178
記念基金		9,690,895,000			9,690,895,000
特定資産合計	280,954,878	9,690,895,000			9,971,849,878
(3) その他の固定資産					
什器備品	2,835,052				2,835,052
保証金	600,000				600,000
その他の固定資産合計	3,435,052				3,435,052
固定資産合計	284,389,930	9,690,895,000	800,000,000		10,775,284,930
資産合計	509,127,801	9,814,480,260	809,567,560	△133,152,820	11,000,022,801

単位:円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	41,284,937	123,585,260	9,567,560	△133,152,820	41,284,937
預り金	2,009,343				2,009,343
流動負債合計	43,294,280	123,585,260	9,567,560	△133,152,820	43,294,280
2. 固定負債					
退職給付引当金	29,520,700				29,520,700
事業推進引当金	330,000,000				330,000,000
固定負債合計	359,520,700				359,520,700
負債合計	402,814,980	123,585,260	9,567,560	△133,152,820	402,814,980
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
出捐金			800,000,000		800,000,000
寄付金		9,200,000,000			9,200,000,000
理事会において記念基金に繰り 入れることを議決した財産		200,000,000			200,000,000
特定資産評価差額金		290,895,000			290,895,000
指定正味財産合計		9,690,895,000	800,000,000		10,490,895,000
(うち基本財産への充当額)			(800,000,000)		(800,000,000)
(うち特定資産への充当額)		(9,690,895,000)			(9,690,895,000)
2. 一般正味財産	106,312,821				106,312,821
正味財産合計	106,312,821	9,690,895,000	800,000,000		10,597,207,821
負債及び正味財産合計	509,127,801	9,814,480,260	809,567,560	△133,152,820	11,000,022,801

正味財産増減計算書総括表 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

単位:円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
指定正味財産からの振替額		495,763,039	39,440,000		535,203,039
指定正味財産受取利息振替額		495,763,039	39,440,000		535,203,039
特定資産運用益	31,915,716				31,915,716
特定資産受取利息	31,915,716				31,915,716
雑収益	8,314,948				8,314,948
受取利息	7,384,650				7,384,650
宿舍使用料収益	480,000				480,000
雑収益	450,298				450,298
他会計からの繰入額	535,203,039			△535,203,039	0
基本財産会計からの繰入額	39,440,000			△39,440,000	0
記念基金会計からの繰入額	495,763,039			△495,763,039	0
経常収益計	575,433,703	495,763,039	39,440,000	△535,203,039	575,433,703
(2) 経常費用					
事業費	372,511,006				372,511,006
記念事業費	216,173,043				216,173,043
資料等整備費	5,609,465				5,609,465
普及啓発費	150,728,498				150,728,498
管理費	94,631,674				94,631,674
人件費	56,755,971				56,755,971
管理諸費	37,875,703				37,875,703
有価証券売却損	997,500				997,500
有価証券売却損	997,500				997,500
有価証券評価損	3,231,000				3,231,000
有価証券評価損	3,231,000				3,231,000
特定資産売却損	5,050,000				5,050,000
事業推進引当資産売却損	5,050,000				5,050,000
特定資産評価損	78,565,822				78,565,822
事業推進引当資産評価損	78,565,822				78,565,822
他会計への繰出額		495,763,039	39,440,000	△535,203,039	0
一般会計への繰出額		495,763,039	39,440,000	△535,203,039	0
経常費用計	554,987,002	495,763,039	39,440,000	△535,203,039	554,987,002
当期経常増減額	20,446,701				20,446,701
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計					
(2) 経常外費用					
固定資産除却損	106,533				106,533
什器備品除却損	106,533				106,533
他会計への繰出額	200,000,000				200,000,000
理事会において議決した 記念基金会計への繰出額	200,000,000				200,000,000
経常外費用計	200,106,533				200,106,533
当期経常外増減額	△200,106,533				△200,106,533
当期一般正味財産増減額	△179,659,832				△179,659,832
一般正味財産期首残高	285,972,653				285,972,653
一般正味財産期末残高	106,312,821				106,312,821
II 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益					
基本財産受取利息			39,440,000		39,440,000
記念基金運用収益			39,440,000		39,440,000
記念基金受取利息		495,763,039			495,763,039
特定資産償還益		495,763,039			495,763,039
記念基金投資有価証券償還益		280,000			280,000
特定資産評価損		280,000			280,000
記念基金投資有価証券評価損		468,296,000			468,296,000
他会計からの繰入額		468,296,000			468,296,000
理事会において議決した 一般会計からの繰入額		200,000,000			200,000,000
一般正味財産への振替額		495,763,039	39,440,000		535,203,039
一般正味財産への振替額		495,763,039	39,440,000		535,203,039
当期指定正味財産増減額		△268,016,000			△268,016,000
指定正味財産期首残高		9,958,911,000	800,000,000		10,758,911,000
指定正味財産期末残高		9,690,895,000	800,000,000		10,490,895,000
III 正味財産期末残高	106,312,821	9,690,895,000	800,000,000		10,597,207,821

キャッシュ・フロー計算書総括表 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

単位：円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
I 事業活動によるキャッシュ・フロー					
1. 事業活動収入					
基本財産運用収入			39,440,000		39,440,000
基本財産利息収入			39,440,000		39,440,000
特定資産運用収入	3,835,856	503,139,191			506,975,047
記念基金利息収入		503,139,191			503,139,191
特定資産利息収入	3,835,856				3,835,856
有価証券売却収入	38,437,500				38,437,500
有価証券売却収入	38,437,500				38,437,500
雑収入	8,347,098				8,347,098
受取利息収入	7,416,800				7,416,800
宿舍使用料収入	480,000				480,000
雑収入	450,298				450,298
他会計からの繰入金収入	542,579,191			△542,579,191	0
基本財産会計からの繰入金収入	39,440,000			△39,440,000	0
記念基金会計からの繰入金収入	503,139,191			△503,139,191	0
事業活動収入計	593,199,645	503,139,191	39,440,000	△542,579,191	593,199,645
2. 事業活動支出					
事業費支出	218,219,113				218,219,113
記念事業費支出	117,885,650				117,885,650
資料等整備費支出	3,794,262				3,794,262
普及啓発費支出	96,539,201				96,539,201
管理費支出	198,174,458				198,174,458
人件費支出	147,989,463				147,989,463
管理諸費支出	50,184,995				50,184,995
他会計への繰入金支出		503,139,191	39,440,000	△542,579,191	0
一般会計への繰入金支出		503,139,191	39,440,000	△542,579,191	0
事業活動支出計	416,393,571	503,139,191	39,440,000	△542,579,191	416,393,571
事業活動によるキャッシュ・フロー	176,806,074				176,806,074
II 投資活動によるキャッシュ・フロー					
1. 投資活動収入					
特定資産償還収入		100,000,000			100,000,000
投資有価証券償還収入		100,000,000			100,000,000
特定資産取崩収入	4,937,900				4,937,900
退職給付引当資産取崩収入	4,937,900				4,937,900
特定資産売却収入	20,000,000				20,000,000
事業推進引当資産売却収入	20,000,000				20,000,000
他会計からの繰入金収入		200,000,000		△200,000,000	0
一般会計からの繰入金収入		200,000,000		△200,000,000	0
投資活動収入計	24,937,900	300,000,000		△200,000,000	124,937,900
2. 投資活動支出					
固定資産取得支出	147,000				147,000
什器備品購入支出	147,000				147,000
特定資産取得支出	69,428,600	300,000,000			369,428,600
退職給付引当資産取得支出	4,378,600				4,378,600
事業推進引当資産取得支出	65,050,000				65,050,000
投資有価証券取得支出		300,000,000			300,000,000
他会計への繰入金支出	200,000,000			△200,000,000	0
記念基金会計への繰入金支出	200,000,000			△200,000,000	0
投資活動支出計	269,575,600	300,000,000		△200,000,000	369,575,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	△244,637,700				△244,637,700
III 財務活動によるキャッシュ・フロー					
財務活動によるキャッシュ・フロー					
IV 現金及び現金同等物の増減額	△67,831,626				△67,831,626
V 現金及び現金同等物の期首残高	106,201,873				106,201,873
VI 現金及び現金同等物の期末残高	38,370,247				38,370,247

財団の概要 (平成20年4月1日現在)

名 称	財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
主務官庁	農林水産省、国土交通省
所 在 地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

役 員

会長	今 井 敬 (社)日本経済団体連合会名誉会長
副会長	野 村 明 雄 大阪商工会議所会頭
理事長	牧 野 徹 前内閣総理大臣補佐官
専務理事	日尾野興一 常勤
常務理事	小 西 昭 常勤
理事	井 手 久 登 東京大学名誉教授
理事	今 西 英 雄 東京農業大学農学部特任教授
理事	小 河 保 之 大阪府副知事
理事	森 下 曉 大阪市副市長
監事	北 山 諒 一 公認会計士
監事	堀 井 良 殷 (財)大阪21世紀協会理事長

任期:平成20年4月1日～平成22年3月31日

評議員

評議員会長	梅 棹 忠 夫 国立民族学博物館顧問
評議員	青 木 保 之 (財)首都高速道路協会顧問
評議員	麻 生 渡 全国知事会会長
評議員	小林庄一郎 関西電力(株)顧問
評議員	近 藤 公 夫 奈良女子大学名誉教授
評議員	佐々木正峰 国立科学博物館館長
評議員	佐 竹 敬 久 全国市長会会長
評議員	佐 藤 四 郎 (社)日本造園建設業協会会長
評議員	佐 藤 安 弘 キリンホールディングス(株)名誉相談役
評議員	堂 元 光 日本放送協会大阪放送局局長
評議員	長 倉 三 郎 前日本学士院長
評議員	橋 下 徹 大阪府知事
評議員	畑 中 孝 晴 (財)日本花普及センター理事長
評議員	波多野敬雄 (学)学習院院長
評議員	濱 口 義 曠 (財)日本穀物検定協会会長
評議員	樋 口 武 男 大阪商工会議所副会頭
評議員	平 松 邦 夫 大阪市長
評議員	松 下 正 幸 (財)松下幸之助花の万博記念財団理事長
評議員	山 本 文 男 全国町村会会長

任期:平成20年4月1日～平成22年3月31日

顧 問

大 島 靖 (財)大阪国際交流センター名誉顧問
河 合 良 一 (財)日本花の会会長
岸 昌 大阪府立中之島図書館名誉館長
豊 蔵 一 (社)日本野球機構セントラル野球連盟会長
中 川 和 雄 大阪日韓親善協会会長

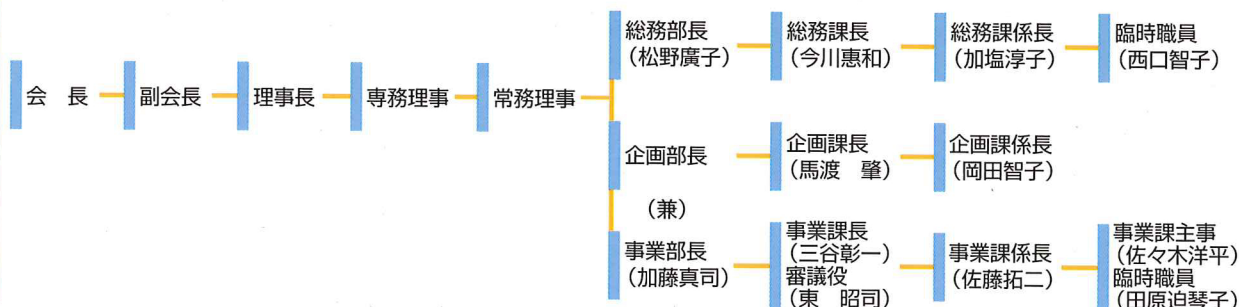
任期:平成20年4月1日～平成22年3月31日

参 与

泉 眞 也 環境プロデューサー
岩 槻 邦 男 兵庫県立人と自然の博物館館長
久 野 明 子 (社)日米協会専務理事
澤 田 隆 治 (社)全日本テレビ番組制作社連盟顧問
中 村 桂 子 JT生命誌研究館館長
平 野 侃 三 東京農業大学名誉教授
樋 口 春 三 JFTD学園日本フラーカレッジ前校長
松 延 洋 平 ジョージタウン大学客員教授
松 本 洋 (財)国際文化会館顧問
山 口 廣 三 (社)国際建設技術協会参与
ルイ・サトウ 在仏建築家

任期:平成20年4月1日～平成22年3月31日

組 織



2008年度(平成20年度)事業計画

博覧会に関する記念事業

1. 2008年(第16回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という)の基本理念である「自然と人間との共生」に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2008年(第16回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成20年度は、2008年の受賞者の選考、決定及び2009年(第17回)の選考準備を行います。2008年の受賞者は6月下旬を目途に承認、発表し、11月4日に授賞式を開催します。

2. 受賞記念講演会等

「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

開催時期:平成20年11月上旬

開催場所:東京と大阪の2カ所

博覧会に関する情報、資料の整理、保存

1. 映像による日本植物誌事業

(PPH:プラント・フォト・ハンティング)

花の万博当時から撮影し蓄積している日本の植物動画映像(約850時間、約4,000種)のデータベースが平成17年度に概成しました。平成18年度から、このデータを基に、「アジサイ」「ユリ」などの作品を制作してきており、平成20年度においても10作品ほどを制作し、PPHのPRと有効活用を図ります。

2. 花の万博映像の保存事業

花の万博開催時に撮影されたハイビジョン等の動画、記録映像の保存、デジタル処理が平成19年度に完成しました。平成20年度はこれらの膨大な画像データの検索リストを作成します。

博覧会理念の普及啓発・継承発展事業

1. 理念の継承発展に関する調査

◆伝統園芸植物の保存活用と普及啓発に関する調査

世界的にも優れた日本の伝統園芸植物の保存継承を図るため、平成20年度は植物の保存・活用、技術の継承、人材の育成等の方策について、有識者、関係機関及び関係団体等の意見を聞きながら、調査・検討を継続して実施します。

2. 理念の継承発展の推進事業

◆KOSMOSフォーラム

花の万博の理念の継承発展を図るため、自然科学、人文・社会科学の各分野を越えた学術の交流と融合を目指す学者・研究者のネットワークづくりの場となるフォーラムを引き続き開催します。

◆コスモスセミナー

花の万博の理念の継承と啓発を目的として、協会事業に関係する学者、知識人等を講師に招き、セミナー(講演会、自然観察教室、小学校への講師派遣)を引き続き実施します。

3. 花と緑に関する国際交流の推進

博覧会国際事務局(BIE)と共催で、花の万博の理念を継承し、かつ今後開催される国際博覧会のテーマに沿った先駆的市民活動に対する顕彰事業として設けたBIEコスモス賞を、スペインのサラゴサで開催される国際博覧会において第1回の本賞を授与します。

4. 花と緑に関する全国的な普及啓発

◆全国花のまちづくりコンクール

花の万博開催を契機に、「花と緑の国づくり及びまちづくり」を目的として、農林水産省及び国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたもので、平成20年度は18回目を迎えます。

主催:花のまちづくりコンクール推進協議会

◆ジャパンフラワーフェスティバル

花の万博開催を契機に、花いっぱいの国土、社会並びに日常生活を実現するため、農林水産省の提唱により平成3年度から開催されているもので、平成20年度は18回目を迎えます。このジャパンフラワーフェスティバル2008 in こうち実行委員会に参画し、実施します。

◆花育活動推進事業

花育とは、農林水産省、国土交通省及び文部科学省の指導・支援の下、花き業界や造園業界等の関係団体が主体となって、花や緑を通じて子供たちの情操教育を行うもので、平成20年度から全国花育活動推進協議会に参画して、その推進に努めます。

◆大阪府市理念継承事業

花の万博開催の地元において実施する理念の継承・普及啓発に関する事業を、地元公共団体及び各種団体等との共催等により実施します。また、平成20年度から新たに、大阪府や大阪市とともに協議会を設け、道路や民有地等で緑のネットワークの構築を図る「花と緑のみちモデルプロジェクト」の推進を図ります。

◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催により実施するほか、協賛、後援等を行います。

5. 花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究開発」並びに「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成事業を引き続き行います。

6. 情報発信運営に関する業務

◆協会ホームページの運営等

協会が実施する事業への理解促進及び普及のため、協会のホームページ並びに「コスモス国際賞」、「KOSMOSフォーラム」のホームページの運営管理を行います。また、協会の概要を周知するためのパンフレット及び年次報告書等を作成します。

◆プレスネットワークの構築

コスモス国際賞をはじめ協会事業の認知度を高めるため、プレス等との共催事業を実施し、ネットワークの構築を行います。

◆コスモス国際賞受賞者との連携事業等

コスモス国際賞の意義、受賞者の研究業績、授賞式及び記念講演会の内容等を取りまとめた報告書を作成、配付します。また、受賞者の著作物等の各種情報を収集し、これらを協会ホームページで紹介します。



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://www.expo-cosmos.or.jp/hanahaku/>

表紙の写真：2007年（第15回）コスモス国際賞受賞者ジョージナ・メイス博士が住む、イギリスを代表する植物（バラ）を授賞式用にデザインしたコサージ・ブートニアです。